

地域がん診療連携拠点病院(高度型)



として指定を受けました
～緩和ケアセンターのご紹介～

2020年4月1日から

地域がん診療連携拠点病院(高度型)として厚生労働大臣から指定を受けました。地域がん診療連携拠点病院としてこれまでの実績(診療体制、診療実績、診療設備、教育研修、地域連携・緩和ケア、患者相談支援、がん登録数、臨床研究、PDCAサイクルの確保、医療安全)が評価されました。

東京都では5病院が指定を受けており、北多摩南部地域では当院が唯一の指定病院です。

昨年、専門的緩和ケアを提供する院内および地域の拠点組織として緩和ケアセンターが開設されました。メンバーは、医師、専門の看護師、薬剤師、栄養士、相談員などで構成されています。患者様の身体的・精神的苦痛の緩和や、生活・就労の問題などその方の必要に応じた相談支援を行い、緩和ケアの提供に努めてまいります。

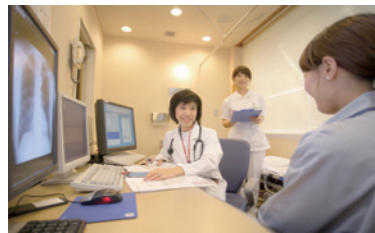
緩和ケアセンター ジェネラルマネージャー
看護係長 藤原 美幸

健診センターからのお知らせ

「土曜日」開設の人間ドックのご案内

●平日は忙しくて!という方向け

平日は忙しくて健診を受けられない方(65歳以下)を対象に、土曜日の人間ドックを開設いたしました。



—申し込み方法—

電話予約または直接健診センターへの来院予約

月曜日～土曜日 午前9時～午後4時
(但し年末年始12/29～1/3及び5/1は除く)

電話番号 0422-30-5638 (直通)
または 0422-32-3111 (代)

「平日」開設の認知症ドックのご案内

●頭を健康を意識する方向け

体の健康だけでなく、頭の健康を意識する方向けに、認知症に重点をおいた認知症ドックを平日に開設いたしました。



健康管理の一環として、武蔵野赤十字病院健診センターをご利用ください。お待ちしております。

★詳しくは病院ホームページ「人間ドックのご案内」でご紹介しています。



頼れる病院をめざします

Eye むさしの



基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛



画像は2017年に撮影したものです

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります

外科手術は通常通りに行っております

2020年4月初旬より新型コロナウイルス感染症予防のため、予定手術を制限させていただき大変ご迷惑をおかけいたしました。現在は手術予定患者全員に対してPCR検査を行い、通常通りに手術を行っております。また、手術症例の院内感染は1例もありませんので、これからも宜しく願いたします。

外科は、上・下部消化管、肝胆膵外科部門の4チーム編成で、専門性を重視しながら一般外科や緊急手術に関しては全員で診療に当たっています。4月より当院初期研修医から後期研修医に採用された2名を含む新人5名（うち女性外科医2名）を迎えて、フレッシュな視点で、もっと良い外科診療を目指して切磋琢磨しております。

専門性に関しては、①内視鏡外科技術認定医3名による腹腔鏡手術および指導、②ロボット支援下手術（ダヴィンチ）（胃、直腸がん）の推進、③安全かつ適切な肝胆膵外科高度技能手術の施行（2019年は高度技能手術40例、膵頭十二指腸切除の術後入院期間（中央値）は18日間でした）④集学的かつ栄養療法を駆使した食道外科手術、これらを中心に診療しております。



緊急疾患や**緊急**手術に関しては、急性虫垂炎や胆嚢炎、絞扼性イレウスなど、全員で速やかに、安全に留意して診療しております。

教育に関しては、研修医、若手外科医に対して一般外科をはじめ専門外科に関する知識、技術を段階的に、また、社会人そして医療人としてのマナーや自覚に関しても皆で指導しております。これらの教育を通して外科メンバー皆が、各々の立場で成長できる武蔵野赤十字病院外科でありたいと考えています。



新型コロナウイルス感染症により、総合病院として診療各科の専門性や協力体制を活かして外科診療を行えるメリットを改めて確認しました。武蔵野赤十字病院外科は総合病院の利点を活かして、皆様のご期待に沿えますよう努力いたしますので、これからも宜しく願いたします。

外科部長 入江 工

お母さんと赤ちゃんのために

～産婦人科の地域周産期センターとしてどのようなお産を目指しているのか～

どこで産もうかと考える時、まず何を参考にするでしょうか。



健診の待ち時間、費用、入院中の食事…

お産は正解がなく、お母さん自身の考え方が大きく影響します。しかし産婦人科医としては「母児共に安全」。絶対的な目標です。命に関わる大きなトラブルに当たる方はほんの一部。ですが生まれるのが1分遅ければ赤ちゃんの一生に影響することもあります。当院では「安全」のために新生児科、麻酔科、救命科、内科の先生方とカンファレンスで情報を共有し、手術室や輸血部とも超緊急帝王切開シミュレーションを繰り返し「その時」に備えます。自分にも怖いことが起こるかも、と考えるお母さんは多くはないでしょうが、頭の隅に置いて頂きたいことです。



もう一点。お産はゴールではなく、お子さんと一緒に過ごしていく「育児」のスタートです。分娩にnegativeな思いを残さず、満足感をもって育児へ向いて頂きたい。当院ではたくさんの助産師がお母さん達と向き合い、気持ちに沿うケアを目指しています。ぜひ皆さんの考える「満足できるお産」を教えてください。

近年話題に上る無痛分娩にも取り組んでいます。

元々医学的適応のある方に絞り行っていましたが「安全なお産」との兼ね合いで積極的に勧めていませんでした。しかし、厚労省研究班から「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」が出され、「安全」な無痛分娩の体制が明確になり、実現準備も進んでいます。

様子を見ながら皆さんにご案内いたします。

お母さん達に「安全で満足できるお産」をして頂けるよう、今後もよろしく願致します。



産婦人科副部長 小林 織恵